

阿武隈カエル図鑑

福島県には日本固有のカエルが10種生息している。現在最も絶滅が危惧されているのはツチガエル。他に、カジカガエル、タゴガエル、モリアオガエルなども生息環境を圧迫され、数が減っている。種類によって生態も様々。それぞれのカエルの特徴を知り、彼らが生きられる環境を壊さないようにしたい。

ヒキガエル科 (1種)



アズマヒキガエル

成長すると十数cmになるが、変態した直後はアマガエルより小さく、体力もない(写真左下)。吸盤を持たないため、水場からの壁が急だと、変態後、登れずに、カエルなのに溺れ死ぬ子カエルもいる。卵は長いチューブ状なので、簡単に見分けられる。色や模様が様々なので個体別に見分けがつく。環境変化で簡単に地域絶滅する繊細な種。哲学者然とした風貌でも人気がある。



↑変態直後はこんなに小さい

アマガエル科 (1種)



ニホンアマガエル

人家に接近する物怖じしないカエル。窓ガラスにはりついて、灯りに群がる虫を食べる姿がよく見られる。雨が降るのを察知して鳴くのでこの名前がある。田圃に水を張った直後に大声で鳴くのもこれ。茶色に変色したときは雲形の模様が出る(写真左)。オタマジャクシは他の種のおたまより目が離れているので比較的区別しやすい。



シュレーゲルアオガエル



全身がきれいな緑色で模様がない。アマガエルとよく間違えられるが、体長は5cm前後になり、アマガエルよりはずっと大きい。大きなアマガエルと、まだ小さいシュレーゲルアオガエルは、目の後ろに黒い筋があるかどうかで簡単に見分けられる。むしろ模様のないタイプのモリアオガエルとの区別が難しい。のんびりした性格で、日中、低木の枝や葉っぱにじっと止まっている姿をよく見かける。

メレンゲ状の白い卵塊を田圃の縁などに穴を掘って産む→



モリアオガエル



木の枝や葉からませて中華饅頭のような白い卵塊を産みつけるとい珍しい生態のため、非常に人気がある。本州全域に生息しているが、水面の上に木の枝が張り出した特殊な環境が必要なので、生息数減少が危ぶまれている。シュレーゲルアオガエルより大きく、オタマジャクシの生命力も強い。上の写真の左側は変態した直後のモリアオガエル(尻尾がまだ残っている)で右はアマガエル。すでにこれだけ大きさが違う。



アオガエル科 (3種)

カジカガエル

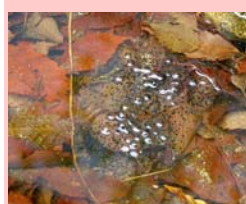
清流にしか産卵しない希少なカエル。灰褐色で、目が大きく飛び出しているのが特徴。オスは約4cm、メスは約6~8cmで、他のアオガエル科のカエル同様、メスのほうがずっと大きい。メスは昼間はまず姿を現さない。オスは産卵期に縄張りを主張して鳴く。その鳴き声が歌うように美しいので、万葉の昔から人々に愛されてきた。近年では河川のU字溝化や護岸工事が進み、生息環境を脅かされている。産卵期以外は沢の周辺の森林などにも生息しているが、同じ沢沿いでも生息場所や産卵場所は狭い範囲に限られており、しかも保護色。産卵期に鳴いているオスを見つける以外には、まず目にするのは難しい「幻のカエル」。



ヤマアカガエル



4cm~8cmくらい。比較的生命力が強く、長生きする個体はかなり大きく成長する。ニホンアカガエルと生態はほぼ同じだが、比べると色が濃く、背中の中本の線が途中で背骨側に少し折れ曲がっているのが見分けるポイント。山間部ではあたりまえに見ることができカエルだが、産卵期には警戒心が強くなり、近づくと隠れる。今にも干上がりそうな水たまりなどにも平気で卵(写真下)を産むので、他のどのカエルよりも卵を目にする機会が多いだろう。



な水たまりなどにも平気で卵(写真下)を産むので、他のどのカエルよりも卵を目にする機会が多いだろう。

ニホンアカガエル



ヤマアカガエルより低地を好むが、混在している地域が多い。アカガエルは最も早い時期に産卵するカエルで、東北の寒い山間部でも3月くらいから産卵する。産卵期にはハルルルルル……と高い声で歌うように鳴く。産卵後「二度寝」する。卵は、産みつけられた水場の水面が凍りついても生き抜くほど生命力が強いが、田圃の水たまりなどに産みつけられた卵の多くは、田植え前に干からびてしまう。他の種のカエルもそうだが、最終的に変態できる確率は極めて低いので、「数で勝負」するしかない。

産卵期にはハルルルルル……と高い声で歌うように鳴く。産卵後「二度寝」する。卵は、産みつけられた水場の水面が凍りついても生き抜くほど生命力が強いが、田圃の水たまりなどに産みつけられた卵の多くは、田植え前に干からびてしまう。他の種のカエルもそうだが、最終的に変態できる確率は極めて低いので、「数で勝負」するしかない。

タゴガエル



体長3~6cm。色は黄土色から赤に近い褐色まで様々。姿形はアカガエルに似ているが、模様あまりはっきりしていない。見かけても、アカガエルだと思って気にとめないことが多い。春の産卵期に沢沿いでゴゴっというぐもった短い特徴的な声で鳴くので存在が確認できるが、岩の隙間などにいるので姿を見るのは難しい。卵を伏流水の中に産みつけ、オタマジャクシも流水の中で育つ。一度に産む卵の数は極めて少なく、卵黄が大きい。地域により形態・生態が異なり、生息数もよく分からない。謎が多く、今後の研究が待たれる。ちなみに名前は両生類学者・田子勝弥氏に献じられたもの。

多い。春の産卵期に沢沿いでゴゴっというぐもった短い特徴的な声で鳴くので存在が確認できるが、岩の隙間などにいるので姿を見るのは難しい。卵を伏流水の中に産みつけ、オタマジャクシも流水の中で育つ。一度に産む卵の数は極めて少なく、卵黄が大きい。地域により形態・生態が異なり、生息数もよく分からない。謎が多く、今後の研究が待たれる。ちなみに名前は両生類学者・田子勝弥氏に献じられたもの。

ツチガエル



体長3~6cmの比較的小柄な黒っぽいカエル。全身が乾いた感じで、小さな線状のイボがあり、「イボガエル」とも呼ばれる。かつては都市部でもごく普通に見られたが、近年急速に数が減っており、福島県では唯一、準絶滅危惧種に指定されているカエル。オタマジャクシはかなり大きくなり、そのまま冬を越すため、冬に水を抜く水田では生きられない。水辺から離れることがなく、民家の池などにも棲みつく。性格はおっとりしていて、写真↑のように、蚊にさされてもじっとしている。人間が近づいてもぎりぎりまで動かないので、気づかずに見過ごすことが多い。

トウキョウダルマガエル



大柄なカエルで、8cm以上になるものもいる。緑色に黒や茶色の斑点を持つものが多いが、茶色や灰褐色のものもいる。トノサマガエルとよく似ていて区別が難しい。福島県にはトノサマガエルは分布していないとされるので、このタイプのカエルを見たら、まずトウキョウダルマガエル。ただし、近年の研究報告によれば、トノサマガエルと交配可能で、あちこちで混在しているらしい。オスは排他的で縄張り意識が強い。特に産卵期には攻撃的になる。そのため他のカエルとの共存が難しい上、ヘビなどの天敵に狙われやすい。水場からあまり離れることのないカエルなので、生息数は急速に減っていると思われる。

アカガエル科 (5種+1種)

(番外) ウシガエル



大きいものでは体長が20cm近く、体重500gを超える巨大なカエル。北米原産で、日本には食用として輸入されたものが逃げて各地に定着した。チューバのような低音・大音量で鳴く。オタマジャクシのまま越冬するので、普通、田圃にはおらず、用水池などに生息する。警戒心が強く、人間が近づくとすぐに姿を隠すので、大きいわりには見つけるのが難しい。他のカエルや魚類、小型ほ哺乳類まで食べるどう猛さで、2006年には「特定外来生物」に指定された。無許可で飼ったり売買すると処罰の対象になるので注意が必要。人間に食べられるために連れてこられ、今では日本古来の生態系保全のために排除されるという、かわいそうな種。